

■ 古垣 達也 (医療機器管理センター, 臨床工学技士) 2015 年 11 月 10 日～11 月 13 日

ベトナム南部に位置するホーチミン市にあるチョーライ病院(1100床)に心臓血管外科医師(平松祐司教授, 榎本佳治講師)と私の3名が派遣されました。活動目的はチョーライ病院と筑波大学で共催する POST-OPERATIVE MANAGEMENT SEMINAR への参加および人工心肺操作技術指導です。

チョーライ病院心臓血管外科センターは専用の手術室とICUを有し、手術件数は約1100症例/年と多くの手術を行うセンターです。今回は4日間の訪問中に15症例の手術が行われました。毎朝、当日の手術の術前カンファレンスが行われ、画像や血液検査結果報告や手術スタッフや術式の確認を全員で行います。人工心肺操作は症例数が多いため、使用する薬剤の種類を最小限におさえ手技を簡素化することで安全に行えるためのシステムが構築されていました。人工心肺装置は3台あり、中には20年以上使用し点検も十分に行われていない装置もありました。医療機器は高価で自施設の努力では更新することができず、国や海外からの寄付で購入しているそうです。技術指導の成果として、人工心肺離脱後に送脱血カニューレを利用して患児の血液を血液濃縮期に導き、水分除去後返血するMUF(Modified Ultra Filtration)が行える様になりました。この手技は心拍再開後の不安定な血行動態の時期に、患児の余剰な水分除去と回路内残血の急速な血液濃縮を行い、ヘモグロビンおよび血液凝固成分の上昇、同種血輸血の回避や使用量の削減など一定の効果があります。しかしながらこの操作には、ポンプの逆回転や急速な血液濃縮、回路内圧力上昇、空気誤送血、循環動態破綻などリスクや注意点も多くあります。我々は事前にマニュアルや参考文献を提供し、その上で直接技術指導を行うことでMUFが行える様になりました。

POST-OPERATIVE MANAGEMENT SEMINAR は日本から7演題、ベトナムから17演題あり集中治療分野、心臓血管外科分野、脳神経外科分野、消化器外科分野からそれぞれ発表がありました。特に心臓血管外科分野では抗凝固管理、補助循環装置、肺高血圧症、ドレーン管理などの発表があり活発な意見交換が行われました。

ベトナムの医療は急成長していますが、医療物資のみでなく医療従事者の養成が追いついていません。今後は今回のセミナーのような人材育成分野への協力が重要だと思いました。



朝の術前カンファレンス



心臓血管センターの手術室